

発達段階		支援レベル High	支援レベル Middle	支援レベル Low
カテゴリー		～小学部3段階相当	中学部1段階～高等部1段階相当	高等部2段階相当
コミュニケーション	受容言語	視覚的に理解 支援者に入力してもらって理解する、またはパターン化された行動として自分で操作して周囲からの情報を的確に受け取れる。 	スキャン・読み上げ 読めない言葉や分からない言葉をスキャンと読み上げで内容を理解することができる。 	スキャンと意味検索 読めない、分からない漢字や英語、言葉の意味をスキャンと読み上げを活用し、適宜検索して意味を理解できる。
	表出言語	選択して伝える 文字や写真・イラストなどで実態に応じて自分の考えや選択を相手に伝えることができる。 	入力や音声で伝える SNSアプリやメールアプリを使い、相手に文字、音声、通話など様々な手段で伝えることができる。 	TPOに応じて伝える TPOに応じた言葉遣いや伝え方を調べたりして適切なコミュニケーションができ、相手とのやり取りを適切に管理することができる。
身近自立	天気と衣服	天気の理解 今日や明日の天気を、晴れ、雨など映像化された情報を手がかりに理解できる。 	天気と気温の理解 天気予報を確認して持ち物や服装を判断し、気温や天気に応じて荷物を準備できる。 	季節に応じた衣服のコントロール 天気予報や気圧から体調の変化に留意でき、持ち物や服装をTPOに応じて適切に判断し、準備できる。
	服薬と管理	服薬中の薬がわかる 服薬の記録を本人や支援者が記録し周囲の支援者に伝えることができる。 	服薬の管理 自分の服薬状況や飲む時間をリマインダーで通知を設定できる。 	服薬管理と通院の管理 自分の服薬の管理に加え、通院先への連絡や定期通院、かかりつけ医を決めて管理できる。
日常生活スキル	スケジュール	見通しをもつ 仕事や日常生活の見通しを並べるなどして視覚的に見通しをもつことができる。 	スケジュールを記録する 自分の仕事のスケジュールややるべきことをカレンダーなどに入力して記録することができる。 	スケジュールを共有する 自分のスケジュールをクラウドベースのカレンダーなどに記録し、適宜相手とスケジュールを共有することができる。
	IOT	IOTで困難を伝える 支援者に入力してもらって準備し、パターン化された行動として自分で操作して持ち物を管理できる。 	IOTで“忘れ”を防ぐ スマートタグやスマートロックなど、忘れ物やしれたことを各種IoTアプリを使って確認することができる。 	日常生活をIoTで楽にする IoTに対応した家電や機器を登録し、GPS機能や時間、気温などの条件から自動的に操作できるよう設定できる。
	買い物支援	買うものを伝える 自分の好きなものやよく買うもの、買いたいものを支援者や第三者に正しく伝えることができる。 	行きつけの店でお得に買う よく利用するスーパー等のアプリなどを見て売っているものやクーポンを得て買い物をすることができる。 	お得な買い方を選ぶ 安く買い物をするために利用する施設のアプリなどでチラシなどの情報を入手し、お得に買い物をすることができる。
	金銭管理	自分が使えるお金を知る 家族や支援者と買い物等で使えるお金の量を視覚的に理解し、自分か買えるものの上限を理解する。 	自分の貯蓄を知る 利用している銀行のアプリなどで自分の貯蓄額を把握し、貯蓄ができているか確認することができる。 	貯蓄と支払いを把握する 利用している銀行のアプリや貯蓄管理アプリを通して、自分のお金の動きを把握し、支出と貯蓄のバランスを意識して生活できる。
	支払い	電子マネーで支払い 硬貨や紙幣を正しく組み合わせで支払うのは難しいが、電子マネーを使うことで買い物ができ、不足すると買えないことが分かる。 	買い物の見通し お金の支払いを視覚的、量的に示して買い物ができる。また電子マネー等の残高を把握し、適宜チャージして買い物ができる。 	自分で管理できる支払手段 電子マネーやQRコード決済など、貯蓄管理アプリ等と連携して使えるものを活用し、自分の支出を管理できる。
	地図と交通機関	目的地までの見通しをもつ 目的地の写真やストリートビュー、AR機能を活用して目的地までの道のりの見通しをもつことができる。 	目的地までの地図を調べる 目的地までの道順や交通手段を調べて適宜公共交通機関を活用して目的地まで移動することができる。 	目的地までの道程と手段を確認 目的地までの道程を事前に確認し、時間間に合うよう公共交通機関の時間を調べて備え、目的地まで移動することができる。
	社会性	遊びと余暇	余暇、興味関心 卒業後の余暇を充実させることを目的に、可能なら散歩など他の活動と連動するコンテンツを楽しむことができる。 	バランスのよい端末利用 スマホやタブレットへの過度な依存を防ぐため、管理アプリを活用して利用のリズムを管理できる。
対人関係・コーピング		気持ちを相手に伝える 自分の今の気持ちをコミュニケーションアプリなどを使って支援者に伝え、適切な対応で情緒安定を図れる。 	自分の感情を振り返る 自分の感情をアプリを通して周囲に伝え、特定の感情の時に自分で適切に気持ちを切り替える方法を選択することができる。 	自分の情動を記録する アプリに自分の情動を記録し、自分自身の感情と衝動が不安定になりそうな場面を予想して行動を決めることができる。
時間とリマインド		タイマーと手順書 実態に応じてタイマーの形式を変えて活用することができる。手順書を見てやることの見通しをもつことができる。 	タイマーとリマインダー 見通しをもつために自分でタイマーを設定したり、リマインダーを設定してやるべきことをリマインドできる。 	忘れずに実行できる リマインダーを活用し、提出するものや準備するもの、やるべきことを整理し、忘れずに実行することができる。